

神楽名

黒口神楽

伝承地

黒口地区
高千穂町大字上野

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

黒口神楽保存会
代表 興梠 賢治



八 鉢

◆ 神楽の概要・由来・その他

黒口神楽は高千穂神楽^{かみの たばる}の上野・田原系統に属する神楽である。黒口は、上野地区の西側に位置する世帯数63戸の集落で、夜神楽は神社の氏子主催で行われている。古武道である「戸田流棒術」が江戸時代から盛んに行われ「戸田流の里」として練習場が大切に保存されている。

氏神社^{うじがみしゃ}である「黒口神社」は、天上界の水種を司る天村雲命^{あめのむらくものみこと}が、牛に乗り高天原からこの地に降りられたと伝えられる。また別伝として十社大明神三毛入野尊^{じゅっしやだいみょうじん みけいりのみこと}の御子・三郎天神が牛を連れてこの地に来られ、宮居を建立されたとあり、古くは「大空天神社」^{おおぞらてん}「三郎天神社」^{さぶらうてん}と称された。神社再建の歴史は古く、天歴9年(955)の棟札があり、現在の社殿は寛政5年(1793)に建立されている。本殿の左脇障子には、牛を連れた天村雲命の彫刻があり、本殿正面の海馬^{かいば}、向拝両柱の昇り龍・降り龍など、多彩な彫刻が施されている。伝えでは、夜な夜な龍が柱を抜け出し付近の作物を荒らしたため、色彩を剥がし、目を緋り抜いたという。

◆ 芸能の機会・場所

- 黒口夜神楽... 11月24日～25日 黒口神社にて神事後、公民館にて奉納
- 新嘗祭^{にいなめさい}、歳旦祭^{さいたんさい}、太鼓の口開け、春の大祭に「式三番」^{しきさんばん}などを奉納

◆ 演目一覧

| | | | | | | |
|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|------------------------|--------------------|----------------------|
| 宮神事 | 御神幸 ^{ごしんこう} | 舞込み | 彦舞 ^{ひこまい} | 御小屋誉め ^{みこやほめ} | 太殿 ^{たいどの} | 神降し ^{かみおろし} |
| 鎮守 | 杉登 ^{すぎのぼり} | 地固 ^{じがため} | 八鉢 ^{やつばち} | 太刀神添 ^{たちかんぜ} | 山森 ^{やまもり} | 七貴神 ^{しちきじん} |
| 幣神添 ^{ひかんぜ} | 五穀 | 地割 ^{じわり} | 御神体 ^{ごしんたい} | 岩潜り ^{いわくぐり} | 武智 ^{ぶち} | 袖花 ^{そではな} |
| 大神 ^{だいじん} | 住吉 | 沖逢 ^{おきえ} | 柴引き | 伊勢 | 手力男 | 鈿女 ^{うずめ} |
| 戸取り ^{とと} | 舞開 ^{まいびらき} | 注連口 ^{しめぐち} | 雲下し ^{くもおろし} | | | |

※平成27年11月の神楽奉納番付に基づく

◆ 演目の特徴

前半は、祓い清めの舞や諸々の神を招く舞が続く。「大神」は、麻の神徳、呪力による祓除招福の神楽で、願掛け願ほどきで萬事を司る大事な神楽といわれ、舞の終了後、神職、舞人により、四方・中央に三度の拝礼が行われる。また「地割」は山神が、耕地の割り替えを行う神楽で、竈祭の神楽としても奉納される。はじめに台所で神事・杯事の後に、神主、太刀・弓の正護と荒神が舞込む。上野・田原地区では、この時、台所役の女性が荒神の袴裾を引っ張り、邪魔をして笑いを誘う。舞の終了後には神主・荒神の問答が行われる。

夜明けには「岩戸開き」の神話にちなんだ「岩戸五番」が奉納され、最後に「注連口」「雲下し」で神々を送って終了する。

◆ その他の特徴

- 面... 猿田彦、入鬼神、地割荒神、七貴神、御神体、柴引き、鈿女、戸取 等
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、ホカケ烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、舞扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、折敷、札板、帯 等
- 文書... 「天石屋戸之伝」巻物(明治37年)、「御神楽御神講屋控帳」(大正4年) 等が保管されている

◆ 伝承の現状・課題

以前は神社の神楽殿で神楽を奉納していたが、見学者が増えたため民家を神楽宿とするようになった。その後、高齢化、住宅構造の変化、見学者のマナーの低下などの理由で、現在は公民館で奉納されている。黒口神楽保存会の会員は小中学生を含む19名で、舞い手、村役目とも高齢化による今後の後継者不足が心配される。



大神



地割



戸取